



白良浜の波打ち際に大量漂着したクラゲ「カツオノカンムリ」を拾い集める久保田信・京都大学助教授(21日、白浜町で)

これまで久保田助教授が北浜の漂着物を定量的に調べはじめたのは2002年5月11日の63個体だった。カツオノカンムリは体長3~6cmほどで、カツオノエボシとギンカクラゲとともに青い帆走性クラゲとして知られる。帆状の薄い板を本体から垂直に立ち上げていて、これが見えない容姿をし

ている。帆の張り方に左右性があるようで、北半球での風向きと関連しているからだと言われている。帆の張り方に左

## 台風1号の置きみやげ

# 白良浜に数千匹漂着 帆を持つクラゲ カツオノカンムリ

風任せで表層を漂う青ムリ」数千個体が21日、観光客が訪れた白浜

町の白良浜の波打ち際にわたり漂着し研究の権威、京都大学瀬

浜町、かまぼこ製造販売業、鈴木博之さん(67)が漂着している大量の青い

個体を確認している。こ

れまで久保田助教授が北

同日午後2時半ごろ、白良浜を散歩していた白浜町、かまぼこ製造販売業、鈴木博之さん(67)が

0.05haある白良浜の波打

山嘉郎さん(61)が北浜か

ら少し離れた同町の大

た。連絡を受けたクラゲ

鈴木さんから連絡を受けた久保田助教授は約6

0.05haある白良浜の波打

山嘉郎さん(61)が北浜か

てはほとんど分かつてい

く北浜で、20日には元

瀬戸臨海実験所技官の櫻

木内が見事な帆を水平板から垂直に立ち上げるカツオノカンムリ

戸臨海実験所の久保田信助教授(51)が確認し、「過去十数年では同種として最多の漂着になり、貴重な記録。台風1号の

置きみやげだろう」と話

くりだと話していた。

久保田助教授が同実験所近くの北浜で、20日には元

の北浜で、20日には元

瀬戸臨海実験所技官の櫻

木内が見事な帆を水平板から垂直に立ち上げるカツオノカンムリ

でこのクラゲを見たこと

はあったというが「毎日

1630個体を確認し

てこのクラゲを見たこと

はあったというが「毎日

1630個体を確認し

てこのクラゲを見たこと

はあったというが「毎日

1630個体を確認し

てこのクラゲを見たこと

はあったというが「毎日

1630個体を確認し